

## 経営のヒント56 子路と牛の物語

### 報酬は受け取るべきかどうか？

孔子さんの論語にこんな物語が出てくる。

「子路と牛」の物語

水に落ちた人が溺れそうになっていたところへ、ちょうど孔子の弟子の子路が通りかかり、水に飛び込んでその人を救いだした。

助けてもらった人は、子路の救命の恩に感謝して、一頭の牛を子路に指し出した。

子路はそれを受け取り、大喜びで師と仲間たちに教えた。

孔子の弟子たちは皆、善事を行なうにあたって、報酬を受け取ってはいけないものだと思っていたが、孔子はとて喜び、子路をほめたたえ、そして言った。

「これから、魯の国には、溺れそうな人を救う人が増えることでしょう」

何故だろう？

理由は3つある。

一、救われた人は感謝の気持ちを示すべきである。

ひとりの生命と一頭の牛の価値を比べたら牛一頭受け取ろうとも過分ではない。

一、孔子の時代には、一頭の牛の価値はおよそ現代の中流階級の人にとって車一台にも相当するものだろう。救われた人がこれほどの貴重な進物を差し出したいというのは、生命をどれほど大切に考えているかということの表れである。

子路が進物を受け取るという事は、その人の価値観を尊重するものであり、受け取らないのは却ってよくないことである。

一、重要な理由として、善人には善の報いがあり、平然として善の報いを受けるべきだということがある。

こうすることでより多くの人が善人となり、より多くの善事をなすことを奨励することになる。

だからこそ、人の命を救った子路の行為は褒め称えられるだけでなく、進物や金銭によっても奨励されるべきなのである。

前回「塾長の独り言」の西遊記での話と同じですね。

三蔵一行が天竺にて、お釈迦様の経典を賜る時に、進物を要求された。

もし、タダといふ無料であれば、その「価値」は、どうなのか？

当然、見えるコストや見えないコストもあります。

「タダほど、高いものは無い」

といふ諺もありますね。

### 感謝、「お礼」と報酬の関係

感謝「お礼」とは、形に表してはじめて、相手にも伝わるもの。

「価値」ということ。その時だけの事を考えるのではなく、未来・将来のことも考えると当然の結果。

善事を行なった「原因」と、報酬を貰ったという結果」の法則ですね。

報酬を貰おうという目的」の為に、善事を行なう手段・方法」ではないのですね。

**原因と結果」と目的と手段」は大きく違う。これが重要なキーワードではないでしょうか？**